

Week of September 27, 2026 - A New Life　　Small Group Study 16

知り合う

子供の頃、掃除機をかけたり皿洗いをしたりするような、家での決まったお手伝いはありましたか？もっとたくさんのお小遣いやご褒美をもらおうと期待して、親に言われた以上のお手伝いをしようとした経験はありますか？ それはいつも上手くいきましたか？

聖句　ローマの信徒への手紙 6:1-14（聖書協会共同訳）

声に出して読んでください：

1 では、何と言うべきでしょうか。恵みが増すようにと、罪にとどまるべきだろうか。
2 決してそうではない。罪に対して死んだ私たちが、どうして、なおも罪の中に生きることができるでしょう。3 それとも、あなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスにあずかる洗礼(バプテスマ)を受けた私たちは皆、キリストの死にあずかる洗礼(バプテスマ)を受けたのです。4 私たちは、洗礼(バプテスマ)によってキリストと共に葬られ、その死にあずかる者となりました。それは、キリストが父の栄光によって死者の中から復活させられたように、私たちも新しい命に生きるためです。5 私たちがキリストの死と同じ状態になったとすれば、復活についても同じ状態になるでしょう。6 私たちの内の古い人がキリストと共に十字架につけられたのは、罪の体が無力にされて、私たちがもはや罪の奴隷にならないためであるということを、私たちは知っています。7 死んだ者は罪から解放されているからです。8 私たちは、キリストと共に死んだのなら、キリストと共に生きることにもなると信じます。9 そして、死者の中から復活させられたキリストはもはや死ぬことがない、と知っています。死は、もはやキリストを支配しません。10 キリストが死なれたのは、ただ一度罪に対して死なれたのであり、生きておられるのは、神に対して生きておられるのです。11 このように、あなたがたも、自分は罪に対しては死んだ者であり、神に対してはキリスト・イエスにあって生きている者だと考えなさい。12 ですから、あなたがたの死ぬべき体を罪に支配させて、体の欲望に従うようなことがあってはなりません。13 また、あなたがたの五体を不義のための道具として罪に献げてはなりません。かえって、自分自身を死者の中から生かされた者として神に献げ、自分の五体を義のための道具として神に献げなさい。14 罪があなたがたを支配することはありません。あなたがたは律法の下ではなく、恵みの下にいるからです。

簡潔に内容をもう一度確認してください。どのような励ましや挑戦、慰めなどを与えられますか？

学び

今日の聖書箇所に基づいて、次の質問を一緒に考えましょう。

1. 1-4節によると、パウロは罪を犯し続けてはいけないと語っています。イエス様はすでに私たちの罪のために死に、私たちに全く新しい命を与えてくださいました。なぜ、私たちは古い習慣に戻るのではなく、この新しい生き方を選ぶべきなのでしょうか。

2. 5-7節でパウロは、古い人は十字架につけられ、私たちはもはや罪の奴隷ではないと述べています。私たちがすでに罪から解放されていると聖書に書かれているなら、この事実は、自分自身の力でただ頑張ろうとする場合と比べて、日々の葛藤や悩みに向き合う姿勢をどのように変えるのでしょうか？

3. 8-11節を見ると、パウロはただ自分は罪に対して死んだ者であり、神に対して生きている者だと考えるようにと語っています。この真理を信じて委ねることは、自分自身の努力によって良いクリスチャンになろうとすることとどのように違うのでしょうか。

4. 12-16節では、私たちは律法の下ではなく恵みの下にいるのだから、自分の体を神様に捧げなさいと語られています。神様の恵みの下に生きることで、「罰せられるのが怖いから」ではなく、「神様を愛しているから」「自由を与えられたから」という思いで従おうとする気持ち（モチベーション）は、どのようにして生まれてくるのでしょうか？

分かち合い

話し合い　その１

武牧師は、神様が私たちを「罪が支配する畑」から「イエス様が支配する畑」へと移してくださったことを説明するために、2つの畑のたとえ話を用いました。サタンは壁越しに今も叫んで声をかけてくることがあり、私たちは古い悪習からついついその声に耳を傾けてしまうことがあります。しかし、サタンはもはや私たちを支配してはいません。サタンの叫び声を無視し、代わりにイエス様の声に耳を傾けるための具体的な方法には、どのようなものがあるでしょうか？

話し合い　その2

武牧師は、階段の掃除機がけでお小遣いをもらっていた頃のエピソードを分かち合いました。彼は、そのお金がただ自分をもっと働かせるための対価ではなく、恵みによって与えられていたのだと気づきました。私たちが過ちを犯したときも、神様は恵みによって赦してくださいます。では、この恵みを「罪を犯し続けてもよいというフリーパス（免罪符）」のように考えるのが、なぜ間違いなのでしょうか？

具体的な祈りの課題を分かち合い、互いに仕え合いましょう。